

ケル、5G市場開拓

「コネクタ―取り付け「ずれ」吸収

ケルは主力のコネクタ―で第5世代通信（5G）関連市場の開拓を強化する。プリント基板にコネクタ―を取り付ける際に生じる「ずれ」を吸収する機能を備え、ロボットが自動で組み立てしやすい製品を開発。通信システムの基地局や遠隔医療向けなどに販売を目指す。2023年3月期中をめどに国内工場のラインを増やし、生産体制も整える。収益源を拡大し、25年3月期に連結売上高を22年3月期比約9%増の140億円に伸ばす。

遠隔医療なども想定

4Gに比べ最大で約100倍の高速・大容量通信が可能なる5Gに
対応したコネクタ―の
開発などを進める。ケ
ルが開発を検討する製
品の一つが5G用の

「フローティングコネクター」。内部のバネの形状などを工夫して可動域を持たせること
で、プリント基板に取り付ける際にずれが生じ
ない。5G向けコネク

し、正常な位置に取り付けることが可能だ。組み立て公差に余裕が
できるため、ロボット
を使った組み立てが
可能になるほか、基板
の亀裂などの不具合も
防ぎやすく、振動にも
強い。5G向けコネク
ターは他社も手がける
が、ケルはフローティ
ング機構を備えた付加
価値の高いコネクタ―
を投入することで、後
発でも商機は十分とみ
ている。スマートフォン
と呼ばれる5Gの小型
基地局や自動車の自動



予定。老朽化設備の更新を行いつつ、ラインを増やして生産能力自体も増やす。能力の増強幅は非公表だが、全体で2〜3割とみられる。

ケルのコネクタ―は現在、半導体製造装置やカーナビゲーションシステム、防犯カメラなどを中心に使われる。22年3月期連結決算は売上高・各利益項目とも過去最高を更新した。

ケルのフローティングコネクタ―。今後は通信向けにも開発・拡販を目指す（同社提供）
運転、遠隔医療などの分野で採用を目指す。同社は23年3月期、山梨事業所（山梨県市川三郷町）や長野事業所（長野県池田町）など国内3拠点に総額10億円の投資を行う。 「収益を今後も維持拡大したい」（春日明社長）として、市場の伸びが見込める5Gや通信関連分野向けに製品を拡充し、需要開拓を進める。